

# 競技注意事項

## 1 競技規則について

本大会は、2024年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則、本大会要項及び競技注意事項を適用する。

## 2 競技場使用について

- ウォームアップは、補助競技場を原則とする。練習は係員の指示によって行うこと。
  - 1～2レーンは周回練習のみ、3～4レーンは短距離練習のみの使用とする。
  - スターティングブロックを使用してのスタート練習は多目的広場側直走路5～10レーンのみとする。
  - 多目的広場側直走路7・8レーンは女子100mH、9・10レーンは男子110mHとする。
  - リレー練習は用器具倉庫前第2コーナー付近で行うこと。第4コーナー付近でのリレー練習は禁止とする。
  - メディシンボールやミニハードル等、競技場備え付けの用具以外は使用禁止とする。
- 砲丸投の練習については、補助競技場内トラック外側の砲丸投ピットのみとする。
- 練習および競技で使用したマーカー（テープ類）は、必ず使用後に各自で処理すること。
- 雨天練習場の使用は、体操、ストレッチ、動き作り、ジョギング程度とし、スパイクを履いての走行や器具（ミニハードルやメディシンボール等）を使用しての練習は禁止する。なお、雨天練習場への出入りは、第2ゲート側からのみとする。
- 全天候走路であるため、スパイクのピンの長さは9mm以下とする。ただし、走高跳は12mm以下とする。また、スパイクピンの本数は11本以内とする。

## 3 選手招集について

- 招集所は、競技場第2ゲート（1500mスタート地点）付近に設ける。ただし、棒高跳については現地で招集を行う。
- 招集開始時刻および招集完了時刻は次のとおりとする。※ タイムテーブルを参考にすること。

|         |        | 招集開始時刻     | 招集完了時刻     |
|---------|--------|------------|------------|
| トラック競技  |        | 競技開始 30 分前 | 競技開始 20 分前 |
| フィールド競技 | 棒高跳 以外 | 競技開始 40 分前 | 競技開始 30 分前 |
|         | 棒高跳    | 競技開始 70 分前 | 競技開始 60 分前 |

- 招集の手順
  - 競技者は、招集開始時刻までに招集所に集合し、最終点呼を受ける。その際、競技役員にアスリートビブスとスパイク、衣類および競技場内へ持ち込む物品等の確認を受けた後、競技役員の指示に従って入場する。（携帯電話や通信機器および音楽再生機等は持ち込めない）
  - 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技に出場できない。
- 2種目を同時に出場する競技者（リレー重複者）は、あらかじめその旨を本人または代理人が競技者係に申し出る。2種目同時に出場する場合は、トラック競技を優先する。
- リレー種目に出場するチームは、**招集完了時刻の60分前**までにオーダー用紙を競技者係まで提出する。オーダー用紙は招集所に準備する。なお、一度オーダー用紙を提出したら、その後の変更は招集完了時刻までに主催者が任命した医務員の判断がない限り認められない。
- やむを得ず棄権する場合は、競技者係に申し出る。

## 4 競技について

- スタートの合図は英語とする。不正スタートについては、1回目から失格とする。
- 予選におけるトラック競技の走路順、フィールド競技の試技順は、プログラム記載の左側の番号で表す。トラック競技の決勝については、主催者側が公平に抽選し、その結果を大型映像及び番組編成表示板に掲示する。
- トラック競技の決勝進出者については、プログラム（競技日程）に示しているとおりにする。なお、同記録着差なしの場合は、日本陸連競技規則に準じて決勝進出者を決定する。ただし、1年男女1500m、2年男女1500m、男女4×100mリレーについてはタイムレース決勝、男子3000mについては、決勝レースのみとする。
- レーンで行う競技種目で棄権者があった場合は、そのレーンをあける。
- 短距離種目では、事故防止のため、フィニッシュ後も自分に割り当てられた走路（曲走路）を走る。
- リレー競技においては、チームの出場者は同一のユニフォームを着用する。ただし、同じチームであることが分かれば、ユニフォームの形式は問わない。
- リレー競技のマーカーの使用は1カ所とする。マーカーは各チームで準備し、使用したマーカーはそのチームで処理する。
- 競技場内での跳躍、投てきの公式練習は、審判員の指示によって行う。
- 走幅跳、三段跳、砲丸投は3回の試技を行い、上位8位を決定する。上位8位の者は、さらに3回の試技を行い順位を決定する。
- 三段跳においては、踏切板から砂場までの距離を9mとする。
- フィールド競技における助力は、観客席に設けられたコーチ席（コーチングエリア）でのみ認める。また、コーチ席（コーチングエリア）近くで、競技者が競技区域の外にいる者から提供された録画再生機器を手を持ち、捜査して確認することができる。
- 携帯電話等の通信機器、ビデオ・デジタルカメラ等を競技場内に持ち込むことはできない。

